

10-3		主題	東日本大震災 ～その後の利用者様の日々～	
リスクマネジメント		副題	手探りの対応から見てきた次なる災害への備え	
災害対策				
研究期間	6ヶ月	事業所	居宅介護支援事業所 ケアマネジメントセンター六月	
発表者：美山 陽子（みやま ようこ）		アドバイザー：池田 政二（いけだ まさじ）		
共同研究者：斉藤 未来				
電 話	03-5242-0309	メール	rokugatsu@seifuukai.or.jp	
FAX	03-5242-0317	URL	http://www.seifuukai.or.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	《事業所紹介》社会福祉法人聖風会が運営母体の高齢者複合施設『ゆうあいの郷六月』内にて、足立区内の在宅利用者様に対する予防および居宅介護支援を行っている。主任介護支援専門員1名を含む常勤3名、非常勤2名の職員構成。 《地域の特徴》足立区の高齢化率は21.7%（H22年度）。エレベータのない都住が多々残り、計画停電中は利用者様宅の多くが停電対象となった。
------------------	--

《研究前の状況と課題》 『ゆうあいの郷六月』では、施設内の相互理解を目的として年に1回、部署ごとの研究発表会を行っている。今年度、ケアマネジメントセンターとしてその内容を検討した際、『東日本大震災』というかつてない災害によって生じた事態と、今後に備えるべき課題のまとめが思い浮かんだ。 常日頃から、職員間で利用者についての情報共有はしているものの、『東日本大震災』による影響という視点で精査したことはなかった。そのため、利用者様の状態変化や、計画停電から生じた特殊なサービス調整などを整理し分析することで、次なる災害に備えてどんな対策を講じておくべきなのかという課題を抽出、そして、実践へとつなげたいと考えた。	《研究の目標と期待する成果》 再び『東日本大震災』規模の災害が生じたときに… 目 標 ① 利用者様の室内での安全が出来るだけ確保され、また、避難もできる。 ② 利用者様・ご家族様・職員の安否確認が出来るだけスムーズに行われる。 ③ 地域住民に対する二次避難場所として、施設の役割が果たせる。 ④ 介護保険サービスの提供上どんな事態（利用者様の变化、必要なサービス調整）が生じるかあらかじめ予測が立てられ、より迅速な対応が図れる。 ↓ 成 果 在宅利用者様・ご家族様の安全・安心に貢献できる施設・事業所として、非常時のリスクマネジメント力が向上する。
--	---

《具体的な取り組みの内容》

①研究対象者

契約利用者様及び関係サービス事業所

②研究実践者

事業所内職員全員

③手法

- 1) 4月下旬：各職員ごとに、『東日本大震災』当日の動きを振り返りつつ、担当利用者様が「いつ・どんな影響を受け・その後担当としてどんな対応を図ったのか」を所定の用紙に整理してもらう。
- 2) 5月上旬：1)を回収し、当日の動きの問題点と、サービス調整に影響した各種要素を分析。
- 3) 5月中旬：他ケアマネジャーからの情報収集と検証を深めるため、「足立区中部ブロック地域ケアネットワーク」に参加。
- 4) 6月上旬：3)で得た情報を再分析。
- 5) 6月中旬：施設内の研究発表会にて中間発表。
- 6) 7月：次なる災害に備え、事業所として実現可能な取り組みを精査、職員内に提案、協力を依頼。
- 7) 8～9月：取り組みの実践および最終分析。

《取り組みの結果と評価》

- ①利用者様に室内環境の整備を勧め、その為のサービスを紹介したり、指定避難所を情報提供することで安心に寄与した。避難所を始め、医療機関や店舗情報などが記載された施設独自の『地域マップ』も作成している最中である。
- ②利用者様の安否確認はマニュアルに基づき適切に実施できたが、職員の安否確認手段は不確定であった。不通がちな電話のみならずメール活用する手法を構築している最中である。また、安否確認が重ならないよう誰がイニシアティブを取っていくのかという課題の解決には、自治体を含めた対応策を議論していく必要があると考える。
- ③二次避難所として地域住民に対する災害時体制が構築されていなかった実情を受け、災害備蓄品の再確認を実施。足立区と連携して要支援者受け入れ態勢も構築していきたい。
- ④生じたケースを振り返り、施設内発表を通して職員間で情報共有したことで、施設介護職員も在宅利用者様の状況を把握することが出来た。

《まとめ》

今回当事者となったことで、大規模災害時のマニュアルと現実の乖離が浮き彫りになった。今後も実効性のある対応策を構築するとともに、地域や行政などと連携を図り、法人理念の通り“地域に信頼される施設”を目指していきたい。

《参考文献》

なし。

《提案と発信》

誰もが想像し得なかった未曾有の災害。在宅利用者様への暮らしや心理的な影響は想像を遥かに超えていた。足立区でも対応策の検討が始まってはいるが、指示を待つ前に、居宅支援事業所および高齢者施設の非常時対策として「できること、できないこと」を把握し、今回を経験に終わらせず、利用者様・ご家族様の安全・安心を具体的に支える取り組みを図る段階にきているのではないだろうか。

【メモ欄】